

其後一度モ出會ハヌ、とりはだぐけ屬地衣體上ニ寄生、上總(成東)(歐文欄第九圖)

13. *Sphaerophorus melophorus* (Nyl.) Wain ~~スミシキ~~ (珊瑚苔) 地衣體ハ珊瑚狀ニ分枝シ殆ト圓柱狀ナリ、無果體ハ基部徑 1—1.5mm 高サ 1—2.5cm. 白色又ハ灰白色ヲ呈シ其質甚ダ脆シ、有果體ハ圓柱狀ヲナシ殆ト上端迄均一ニシテ徑 1.0—1.5mm. 僅ニ分枝シ先端ニ球形ノ果頭(子器)ヲ頂ク其徑平均 2mm. アリ側面缺裂シテ黑色ノ胞子塊ヲ吐ク、果頭ヲ縱斷スレバ子囊下層ハ略球形ヲナシ中心ハ帶褐色ヲ呈シ周邊ハ濃褐色ニ染マル、子囊層ハ殆ト無色透明ニシテ子囊ハ圓筒狀ヲナシ大サ約 40—50 × 6—7 μm アリ八子ヲ入ル、胞子ハ略球形ニシテ徑 6—7 μm アリ幼稚ナルモノハ無色後淡紫色又ハ淡青色トナル、子囊層ノ外側ニハ青黑色ノ胞子塊ノ厚キ層アリ此部位ニアル胞子ハ濃青色ニシテ表面ニ炭質ノ粉末ヲ以テ覆ハル

歐洲產 *Sphaerophorus globosus* (Huds.) Wain ト異ル處ハ髓層ノ菌絲沃度溶液ニヨリ着色セザルト胞子稍々小形ナル點ニアリ

地上蘚苔中又ハ樹皮上ニ着生、駿河(富士)、下野(日光)其他各地高山ニ産ス(歐文欄第十圖)

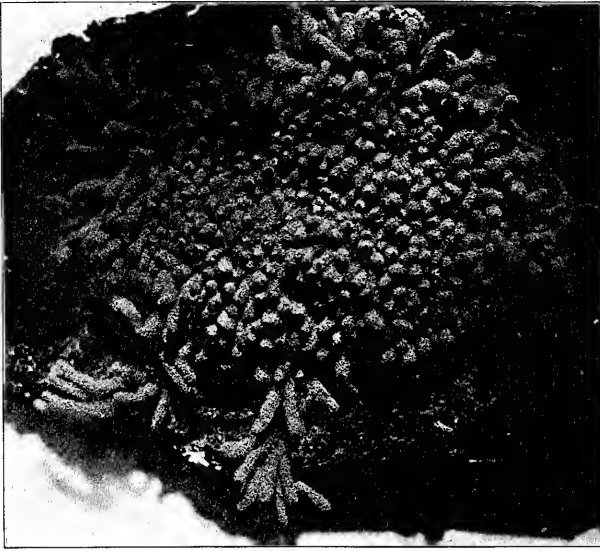
14. *Sphaerophorus compressus* Ach. ~~スミシキ~~ 資料 I. No. 37. ニ詳記セリ

○日本變形菌譜 其五 (前回「其三」(本卷第七號)ツギキ「其四」トアルヲ其四ト改訂スル)

理學博士 服部 廣太郎

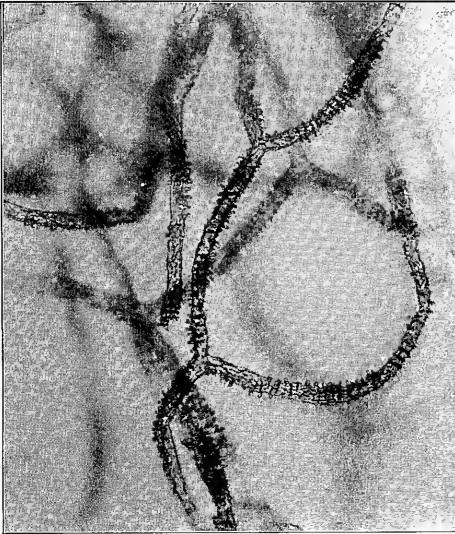
○*Arcyria nutans* (Bulliard) Greville

子囊體ハ朽木上ニ叢生シ、初メハ全長ニ耗位ニ見エルガ成熟シタ者デハ細毛體ガ彈力性ニ富メルガ故ニ著シルシク伸張シテ五耗カラ一耗位ニ達スル者モ少クナイ、全觀ハ黃褐色又ハ玉蜀黍色ニ見エル(第一圖)、子囊體ノ柄ハ短カクシテ暗褐色ヲ呈スル、子囊ハ細長クテ其膜壁ノ大部分ハ早く剝脫シ柄ニ近カイ部分ダケガ僅カニ歪



第一圖

Arcyria nutans (BULL.) GREV. ノ全形 (二倍大)

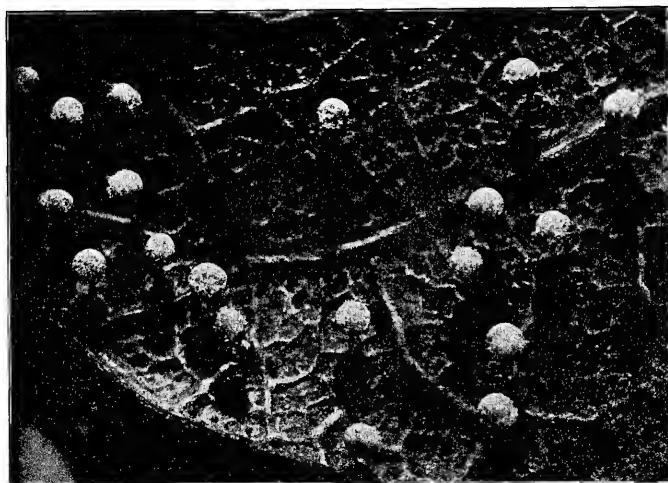


第二圖

同上ノ細毛體ノ一部 (四百倍大)

狀體トナリテ殘留スル、是ハ *Arcyria* 屬ノ他種ニモ多イ形態デアアル、此盃狀體ハ顯微鏡下デハ細カキ網狀模様ノアル膜デアツテ其内面カラハ小突起ガ散生スルコトヲ見ルデアラウ

細毛體ハ淡黃色ノ絲カラ成ル、此絲ハ分岐シ其枝ハ互ニ連絡シテ網ヲ成シ盃狀體ノ基底カラ出デ細長イ子囊ノ内ヲ充實シテ居ル、頗ル彈性ニ富ムガ故ニ細毛體ノ細長キ綿狀塊ハ伸ビテ全體ガ弓狀ニ彎曲シ幾分垂レ下ガルコトガアル、第一圖ノ群體ノ端ニ在ル者ニ其



第 三 圖

Arcyria globosa Schw. ノ全形 (十倍大)



第 四 圖

同上、子囊ノ上半ハ散失シ内
部ノ細毛體(c)ヲ現ハス、胞子
ノ大部分ハ散失ス、(s)ハ子囊
ノ下半部、(h)ハ變形膜
(約六十倍大)

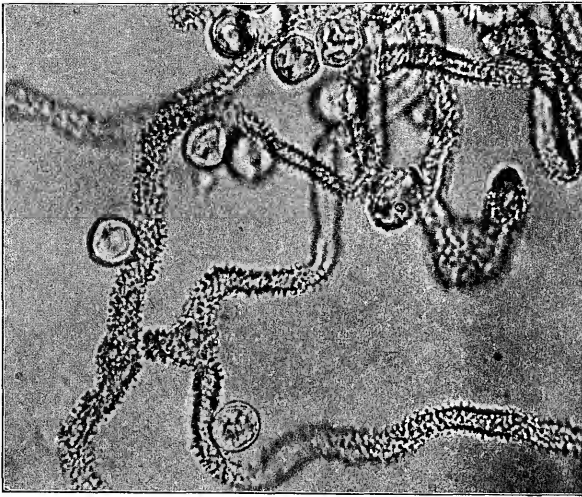
(Hypothallus)
其端ハ變形膜
シク太クナリ
基部ノ方ニ少
アリ、其柄ハ
幾分長キ柄ガ
或ハ之ヨリモ
長サニ等シキカ

子囊體ノ色相ハ白茶色カ淡キ黄蘗色ニ見エル、稀ニハ密集シ
テ發生スルコトモアルガ多クハ落葉ノ上ナドニ點々ト離レテ
發生スル(第三圖)、各子囊體ニハ稍ミ子囊ノ長サニ等シキカ

○ Arcyria globosa Schwein

胞子ハ球形其膜ハ平滑ニシテ極僅少ノ疣狀點ガ散在シ色ハ淡
黄色デ直径ハ約ハルヲ算スル、此種ハ廣ク熱帶、溫帶ヲ通ジ
テ分布シ本邦デモ諸方ニ産スルコトガ知ラレテ居ル、茲ニ舉
ゲタ者ハ下野那須ノ高原ノ森林中ニテ採ツタ者デアル

趣ヲ見ルコトガ出來ル、細毛體ヲナス纖維上ニハ短クシテ尖リタル棘狀突起カ若シクハ幾分横長ガノ齒形ノ突
起ガ緩ルイ螺旋狀ノ排列ヲナシテ密生スル、而シテ此突起ノ
外ニ不規則ナ網ノ様ナ模様ガアル、此模様ハ突起ノ無イ部分
ニハ殊ニ明カニ見エル(第二圖)



第五圖
同上、細毛體ト孢子(千倍大)

(變形膜トハ變形體ノ一部ガ其儘殘リ膜狀ニ變化シタ者ヲ意味スル、Ceratomyxa 記事中ニハ原語ノ儘使用シタガ便宜上此譯語ヲ創定スルコトニシタ)ニ移リ行キ此膜ニテ他物ニ固着スル、子囊ハ球狀ヲナシ其被膜ノ上半ハ熟スレバ開裂シテ散逸シ中カラ細毛體ト孢子トガ現ハレル、子囊ノ下半部ハ盂狀ヲナシテ残り其内底ニハ細毛體ガ著生スル、第四圖ガ其レデアルガ細毛體ノ網ガ壓サレ

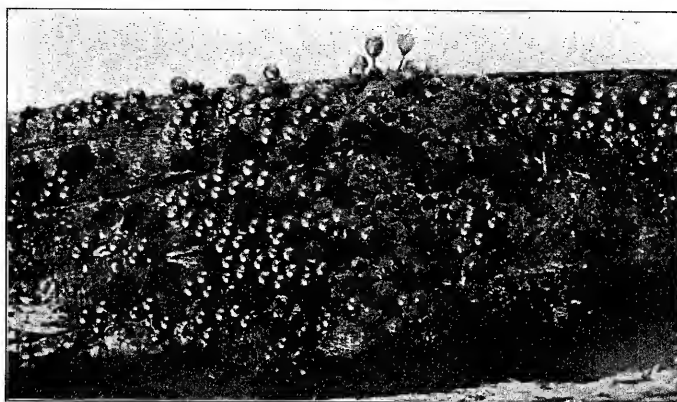
テ一方ニ片寄リテ塊マリ形ヲ變ヘタ者デアル
細毛體ハ割合ニ彈力性ニ乏シクテ餘リ膨レ出ルコトガナイ、

其纖維ハ殆ンド色無ク目ノ疎ライ網ヲナシテ居リ絲ノ表面ニハ疣狀ノ突起ガ無數ニ存在スル、之ガ緩ルイ螺旋的排列ヲナシテ居ル部分モ見ルコトガ出來ル(第五圖)

孢子ハ細毛體ノ網目ヲ填充シ團塊ハ薄卵色ニ見ユルガ顯微鏡下デハ殆ンド無色ニ見エル、表面ハ平滑ニシテ僅カニ小疣狀突起ガ點々スルコトハ前記ノ種ニ似テ居リ直徑ハ六乃至八μニ達スル

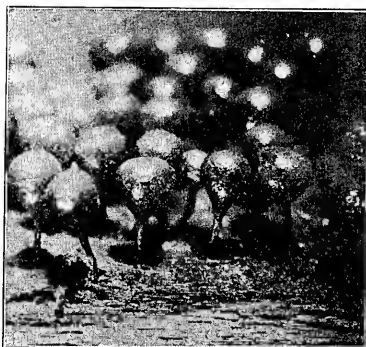
本種ハ北米合衆國デハ落葉上ニ發生スルガ多ク栗ノ一種 *Castanea dentata* ノ雄花ヤ殼斗果上ニ發生スル由デアル、其他印度セイロン島ニモ產スルコトガ知ラレテ居ル、日本デハ本島ノ中部ノ諸所ニテ採集セラレテ居ル、玆ニ擧ゲタ者ハ前種ト等シク下野那須ノ森林中ノ落葉上ニ發生シタル者デアル

Otrichia decipiens (PERRON) Mc. BRIDE



第 六 圖

Trichia decipiens (Pers.) Mc. Br. ノ全形 (二倍半大)



第 七 圖

同 上 (十倍大)

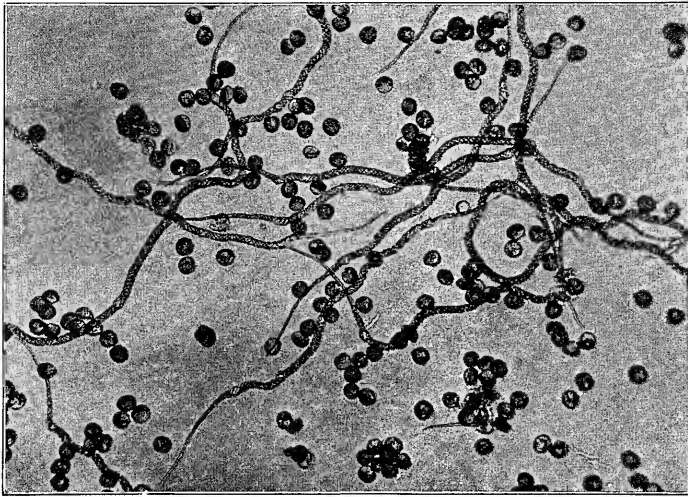
子囊體ハ多クハ朽木ノ上ニ群生シテ無花果カ茄子ヲ逆サニシタル如キ形ヲナシ柄ハ相當ニ長イ、柄ハ鶯色デ一

ツノ管ヲナシ其内腔ニハ孢子様ノ顆粒ガ充チテ居ル、子囊ノ外觀ハ頗ル光澤ガアツテ色相ハ鶯茶カ黃茶色デアアル、囊壁ハ二層カラ成リ熟スレバ子囊ノ頂上ニ近イ所デ環狀ニ裂ケテ圓キ蓋ヲ去ツタ如クニ開口シ内部カラ細毛體ト孢子トヲ露出スル(第六圖及第七圖)

細毛體ハ細ク長キ一本ノ彈絲ヲナシ兩端ハ更ニ細ク長ク尖レルコト第八圖ニ明カデアアル、此絲ニハ稀ニ分枝シタル者ノアルコトモアル、彈絲ノ色ハ密集シタ者デハ「オリーブ」色カ幾分褐色ヲ帶ビテ鶯茶色ニ見エル、各絲ノ表面ニハ四本若シクハ五本カラ成ル螺旋條ノ模様

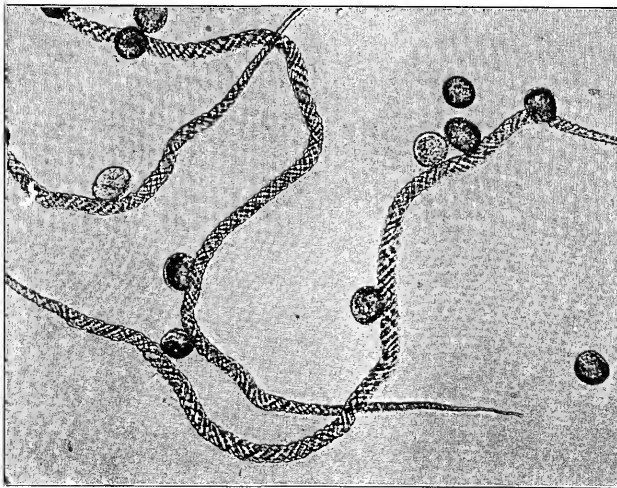
ガアリ、此模様ハ彈絲ノ兩端ニ近ヅクニ從ツテ次第ニ不明ニナル、又螺旋條ノ上ニハ別ニ棘狀ノ突起ハナク全ク平滑デアアル(第九圖)

孢子ノ團塊ハ鶯茶色ニ見エルガ顯微鏡下ニ廓大スルト各個ハ淡キ「オリーブ」色ニ見エル、大サハ一〇乃至一二μヲ算スル、孢子ノ表面ニハ極メ



第八圖

同上 細毛體ト胞子(二百倍大)



第九圖

同上(四百倍大)

ン・瓜哇等ニモ知ラレ北米・歐洲ノ溫帶地方ニモ產スル、日本デハ今日迄ハ主トシテ本島ノ中部デ採集セラレタ、茲ニ

テ細カキ
突起ガ點
々ト散在
スルカ或
ハ細カキ
網目ノ模
樣ヲ有ス
ル者モア
ル、第九
圖中ノ者
ニ多少其
樣子ヲ窺
ヒ知ルコ
トガ出來
ル
此種ハ印
度セイロ

地 黄

シタノデアラウ、今ハ磯城郡安倍村附近ヲ中心トスルガ近年支那カラ輸入スル品ニ價格デ押サレテ年々衰微スルノハ甚ダ残念ナコトデアアル、品質ハ日本産ノ方ガ概シテ優良デアアル



あかやぢわう

(Rehmannia glutinosa LEBOSCH. var. purpurea MAKINO.)

記シタ者ハ常陸筑波山ノ森林中朽木ノ上ニ發生シタ者デアアル

○地 黄

藥學博士・刈 米 達 夫

藥用植物中觀賞ニ值スルモノモ少ナク無イガあかやぢわうモ亦其ノ一デ獨特ノ風趣ヲ持ッテ居ル、あかやぢわうノ根ハ地黄ト稱シ重要ナ漢方藥デ現今モ賣藥ニ多量ニ用ヒラレル爲本邦各處ニ栽培シ殊ニ奈良縣ハ其ノ主產地デアアル
奈良縣下ニ於ル地黄ノ栽培ハ可ナリ古クカラ行ハレテ居ルモノラシイ、同縣高市郡眞菅村ニ地黄(大字)トイフ處ガアル、今ハ此處ニハ全ク地黄ハ無イガ昔ハ盛ニ栽培